

# 地域ネットワークニュース

～3月の勉強会のお知らせ & 2月の勉強会報告～

第137回地域ネットワーク勉強会

## ひきこもり当事者の思い



講師：Aさん（男性26歳 ひきこもり経験者）

佐藤節子氏（ニート ひきこもりホットライン相談員）

3/10(火)

19:00～21:00

保健・福祉会館

2階 研修室

近年、思春期 青年期の心の問題としてひきこもりが社会的にクローズアップされています。ひきこもりとは、一つの病気の名称ではなく、様々な要因によって社会的な参加の場が狭まり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことを指します。

様々な要因の中には、統合失調症、うつ病、強迫性障害、パニック障害などの疾患が考えられる場合がありますが、それに対して、明確な疾患や障害の存在が考えられないにもかかわらず、長期にわたってひきこもっている人々がいます。このようなひきこもりのケースは「社会的ひきこもり」と言われています。

ひきこもっている状態は一見すると‘怠けている’ように見られがちですが、本人自身はものすごく焦っていたり、将来に対して不安になっていたり、自責感に苦しんでいたりとその悩みや不安は絶えません。

今回お話をいただく当事者Aさんは、約2年間のひきこもりを経験し、良き支援者との出会いを通じて、現在では少しずつ将来の目標や自分自身への自信を取り戻しつつあります。

そんなAさんより、ひきこもりになった原因や当時の心境、支援者との出会いで変わってきたこと、周囲に伝えたいことなど、実体験から率直な思いを伝えて頂きます。

この機会に、現在社会の病といわれる「ひきこもり」について考えてみませんか。

第136回地域ネットワーク勉強会 報告

<参加者118名>

## 障害があること、育つこと ～障害児支援の立場から～

【東海大学健康科学部社会福祉学科講師 竹之内章代先生】



竹ノ内章代先生の講演は、支援者が持つべき視点と考え方について『その子がその子らしく育っていくために“今、支援しなければならないのか、時間をかけて見守るべきか”成長の連続線上を考えながら関わる必要があります』と、障害に捉われない「当たり前のことを当たり前に関わる大切さ」を、現場での豊富な経験とエピソードを交えて分かりやすく伝えて下さいました。

先生の丁寧で優しい語り口調に「具体的でとてもわかりやすかった」「夢中になってお話を聞きました」と、参加した皆さんも充実した時間となったようです。

今回は第4期発達障害療育者研修（夜間講座 全5回）の修了生の方々へ、社会福祉協議会保立会長より修了証と記念品の授与が行われました。

第4期研修の修了生（全日程参加者）は45名！第1期からの修了生は計139名となりました。

この発達障害療育者研修は今年で4期目となりますが、今回当初の定員30名を超える多数の方の参加希望があり、発達障害への関心の高さと、障害について学べる場のニーズの高さが改めて確認されました。

お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ 0299-93-0294